都市部への移住に起因する地域過疎化と若者の価値観との関係のモデルについて

　本研究では、地方から都市部への移住による地域の過疎化と若者、中でもとりわけ女子のの価値観との関係を表すモデルの構成要素を調べ、原因を定量化し、モデルを構成する変数への理解のための基本的なデータを得ている。本研究の対象は、地方からの若年層の流出に起因する過疎化という範疇に属するが、働き場を含み若者が地方に対して抱く期待感の抽出に焦点を当てている。

アンケート調査は、2016年6月下旬~7月末、東北地方の女子短期大学で実施された。アンケート調査の主旨は、回答者の目線または地元(出身地)や周辺地域の例を参考にしながら、過疎化の原因となり得る「大学や短大、専門学校等の卒業後、地元には戻らない・ 戻れない」という現象を追究することだ。このアンケートでどの地域においても大都市への移動の原因の圧倒的上位となったのは、「就職先がないこと」であった。またこれは若い女子へのアンケートであるため、「娯楽や買い物、 食事等の場所がないまたは少ないこと」を重視している地域もあった。これは若い女子が地域に期待するものを示唆していると考えられる。全体のアンケートの結果をまとめ、グラフとして可視化しわかることは、「就職に関係すること」の後に、「楽しいもの」や「憧れ」が地元に戻らないまたは戻れない現象に関与していることだった。

過疎化という問題は多くの地域で問題視されており、こうした調査からその原因は可視化されてきている。就職先がない、所得が低いという現実的でどうしようもない理由だけでなく、都会への憧れなど心理的な原因も多くあることがわかった。過疎化の進んでいる地域はそれらのことを踏まえ、若者がこの街に残りたいと思わせるような街づくりを行っていくことが求められる。